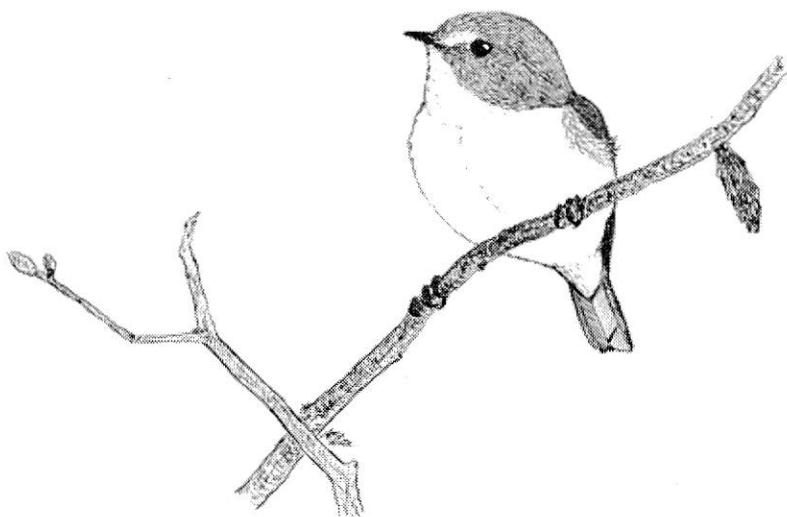


協議会ニュース 110号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2007. 1



ルリビタキ

野鳥観察が好きな人には心ときめく青い小鳥。
富士、鷹、茄子よりもこの鳥に出会えれば、幸せな一年になりそう。

(イラスト・文…名古屋支部 渡辺敦)

・自然観察指導員フォローアップ研修	原田文男	…p2
・支部だより		
知多支部秋の研修旅行	小川展弘	…p4
・フォローアップ研修	吉田孝三	…p6
・会員のページ		
自然観察指導員としての企画発想	小塚達也	…p7
・自然セレクション 100 東山公園	滝田久憲	…p8
・自然観察　自然のしくみ	奥居達朗	…p9
・理事会報告		…p10
・事務局だより		…p11
・行事/編集部だより		…p12

愛知県主催

自然観察指導員フォローアップ研修会

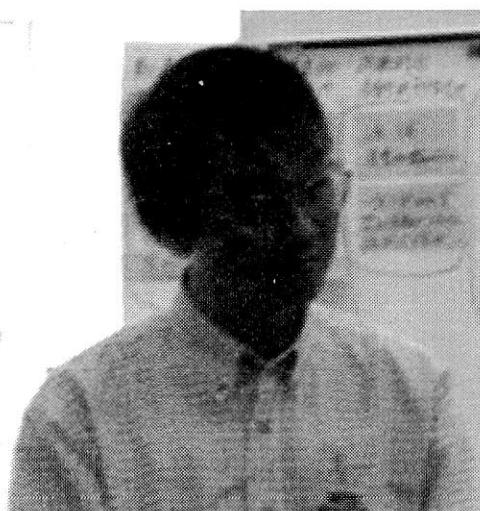
平成18年11月11日（土）～12日（日）の2日間にわたり、愛知県主催で自然観察指導員フォローアップ研修会が開催されました。

東三河支部から参加された原田文男さんから参加報告をいただきましたので、紹介させていただきます。

レポート「子どものための環境学習指導研修会」

東三河支部 原田 文男

11月11～12日、自然観察指導員フォローアップ研修として「子どものための環境学習指導研修会」が犬山国際ユースホテル（犬山市）で開催され、参加する機会を得ましたのでその概要を報告します。会場は木曽川沿いから少し入った雑木林の中にあり、ユースホテルとは思えぬモダンな建物でした。近くにもみじの名所寂光院があります。



▲植原 彰氏

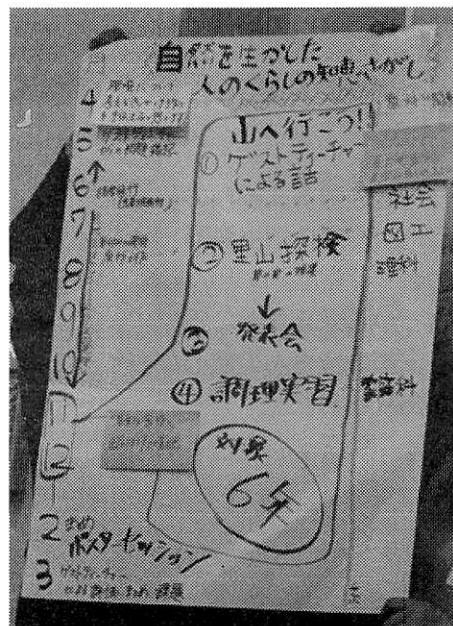
研修は、山梨県立博物館の植原彰氏を講師に迎えて行われ、自然観察指導員、教員（約10名）あわせて29名が参加しました。

この研修の特徴は、それぞれの立場で環境教育に携わっている小中学校の教員と自然観察指導員が一緒に環境教育の目的、手法などについて学び、相互に理解を深める機会として提供されたことです。教員側は「総合的な学習の時間」枠の中で環境学習を行おうとしても具体的なイメージがわからない、指導員側は全部任すと言われても求めるものがわからないなど、お互いに言い分や課題があります。

研修では、環境教育のあり方に関する講義を受け、評価基準の考え方や教員側の求めに応じた課題での観察プログラム作りなどを実習しました。また、教員たちも環境学習プログラムの企画を体験しました。

日程の関係で、評価基準の妥当性や、実習で作成した双方のプログラムの評価を具体的に議論するまでには至りませんでしたが、この研修を通じ、お互いの立場を認識したうえで、率直に意見交換ができたことは意義があったと思います。

今後、学校の現場で自然観察指導員が環境教育に携わっていく際には、総合学習のスケジュールに組込まれた環境学習テーマについて教員と指導員が協力し合い、十分な意見交換を行って企画・内容を深めていくことが大切ではないかと感じました。また、環境学習を子どもたちに対してどのように継続していくかも大きな課題になると思います。



▲各グループの意見を発表で共有

結構厳しいスケジュールの中で、お楽しみは夜の懇親会でした。植原講師の手土産「山梨のぶどう酒」で乾杯し、会員の持参した柿やつまみをいただきながらの四方山話は時間の経過も忘れるひと時でした。これがなくちゃ、研修じゃない、とは言いすぎでしょうか。

また、事務局の努力で料理もよく、食事時間も貴重な情報交換の場となりました。新米指導員としては、ベテラン指導員の活躍話と蓄蓄に圧倒されもしました。普段、殆ど会うことのない他支部の仲間に出会えたことがこの研修の最大の収穫だったといえるかもしれません。

【研修会のプログラム】

11/11(土)		11/12(日)	
13:00	開講式	7:00 ~8:00	朝食
13:30 ~15:00	野外実習 「大山の自然を、環境学習の視点でみてみると」	8:00 ~9:30	朝のさんぽ ・指導員によるワークショップ3のための下見 ・先生のためのリスクマネジメント野外実習
15:00 ~16:00	ミニレクチャー ① 環境教育ってなんだろう ② NACS-Jと環境教育	9:30 ~11:00	ワークショップ3 「環境学習を企画してみよう その2」
16:30 ~18:00	自己紹介 ワークショップ1 環境教育の「評価基準」を考えてみよう	11:00~	ワークショップのまとめ 閉講式
18:00 ~20:00	フリータイム（入浴・夕食）		
20:00 ~21:00	ワークショップ2 「環境教育を企画してみよう その1」		
21:00~	親睦会（自由参加）		

知多支部 秋の研修旅行

～晩秋の尾張丘陵を訪ねて：名古屋支部・尾張支部との交流会～

知多支部 小川 展弘

今回の知多支部秋の研修旅行は、11月25日（土）～26日（日）に尾張丘陵の猪高緑地、岩倉自然生態園、児の森（小牧市）、犬山灯火観察、築水池（春日井市）、やすらぎの森（可児市）などの自然を観察しました。尾張丘陵は木曽川と濃尾平野の豊かな基盤に古くから栄えたところです。参加者は子供もいれ総勢25名、幸い天候にも恵まれ、また各支部の皆さんのが熱心なガイドで素晴らしい自然との触れ合いが出来、多いに得るところがありました。

（11月25日—緒高緑地～岩倉自然生態園～児の森～犬山・灯火採集）

①猪高緑地：名古屋支部の浅井聰司さんにご案内頂

きました。オタマジャクシの形をした面積6.6haの緑地です。都市から孤立した森で特に北側は自然のまま保存されています。草木の伐採、自然に合った里山の森作り、水稻耕作、竹林の整備など市と協同で取組んでいます。また水質良好な湧水池=塚の松池については30年以上をかけて自然環境などを継続観察中です。悩みの種はカシ類が、体長5mm程の天敵"カシノナガキクイムシ"による通道阻害で甚大な被害を受けていて、その実害を目の当たりにして参加者一同驚きの声を上げました。ブナ科のコナラ、アベマキ、アラカシの順に被害を受け、広がりつつあるそうで、既に緑地内、約120本が何らかの被害を被っているそうです。案内頂いた浅井さんから金色に塗ったオナモミやお猿さんの顔を描いたカラスウリの種をお土産に頂き、棚田を背に陽光を浴びたススキの穂が光り輝く風情を後に次の観察地に向いました。



自然にあった里山の森作りがされていました



②岩倉自然生態園：昼食を採り終った頃に三輪さんが案内に来場されました。当生態園は、この地域に古くからあった自然環境を復元し数多くの動・植物類の生息する空間を作り出そうとしています。コウモリタワー、昆虫の繁殖堆肥場や復元ビオトープなどの設備を備えています。コガネムシの仲間アオドウガネが好むハンノキの葉を食べた痕跡やオオムラサキの幼虫同様、初夏にゴマダラチョウの幼虫の食樹でもあるエノキなど



を観察しました。ビオトープの縁にキセキレイが飛来、その動作が我々に挨拶する様に似て参加者一同、顔が和みました。

③児の森：地元の御宮さんの児神社を名前の由来とする森で自然体験の場として下草刈りなどの整備の跡が見えます。特にイワカガミはロープで柵を施し大切に保護している姿勢を感じさせる一方、多量のモミジの植樹にはやや難があるよう感じたのは私だけではなかったのではないでしょうか。「ささゆりの小道」、「どんぐりの小道」を辿り「ホウノキの小道」の西側斜面に初雪と紛うほど幻想的にホウの葉がへばり付いていたのが印象的でした。

《11月26日—築水池周辺～やすらぎの森》

④築水池周辺の自然観察：グラウンド側の駐車場に降り立つと、春日井少年の家の看板表示が目に入りました。松尾協議会会長の出迎えを頂き、参加者一同訪問録に記帳後、出発。池周辺の森の植生は、アカマツ郡と照葉樹林帯で構成され、痩せた土地のため、その生育が遅いようです。池の水が落とされ地底が見える状態となっていました。また地層が池の南北で古生層と新第三紀層とで分岐しているとのことです。小道のコンクリート壁面の排水孔にドロバチ、ルリジガバチたちが巣食っていてその出口付近には多量の糞が観察されました。昔、御歯黒の原料となった珍しいヌルデミミフシも観察。遠く明治35年に大谷川の氾濫防止のための治水事業で造られた堰堤の上に立派に形成された森に別れを告げました。

⑤やすらぎの森：尾張支部会長の山田さんの案内で、懐の深い痩せ地にコナラ、アベマキ、アカマツの雑木林となって手を付けられない姿になっている森に入りました。地層は新生代第三紀の土岐砂礫層で構成されているそうです。ナワシログミとツルグミとの見分け方に諸説があることを学びました。リョウメンシダの群落、ミヤマガマズミ（実を少しだけ持ち返りました）、ジャノヒゲや薬用のオケラ、光合成・窒素固定をも行うネンジュモなどを観察。カツラ、コブシなどの落葉の発酵で甘酸っぱい香りとカケスの声に見送られ小雨が降り始めた東ゲートから帰路に就きました。

《エピローグにかえて》

尾張丘陵地は、その北側の国宝犬山城付近が2億年以上も前の古生代の終わりから南側の新生代と呼ばれる現代までの変化に富んだ地質で、特に前者はチャート、砂岩、頁岩などの岩石で構成されています。また、丘陵地の植生は垂直分布模式的に見るとシイ、タブ群落の照葉樹林帯で構成されています。このように恵まれた自然に接し生き物の名前を憶えることは自然と親しくなるための第一歩です。今回も五感をフルに活用し、特に匂いを嗅ぐ、触れてみることで葉などの持つ質感の違いなどが、不完全ながらも、ある程度、判別できることが出来、実りの多かった研修旅行でした。末筆ながら今回の研修旅行に際し、ご案内頂いた名古屋支部及び尾張支部の方々に本紙面を借りて厚く御礼申し上げます。



『フォローアップ研修』 10月29日

知多支部 吉田孝三

10月29日の(県協議会)フォローアップ研修『木の実』に参加しました。研修会は6月以来毎月「海上の森」で開催され、5回目となりました。毎回参加して思うのは「海上の森」を散策しながらテーマに沿って参加者が、お互いに持っている知識を他の参加者と話し合いながら、「観察会を開く時の考え方」や「指導方法」「話し方」などを含め参加者相互の知識交換と交流を深めています。

今回は『木の実』についてです。まず集合場所の駐車場で挨拶を済ませスタートです。最初に目に付いたのは「ガマズミ」です。赤い実が生っています。鳥が食べますと説明があり、その後中の種の大きさは?赤い実のどのくらいの大きさか?と質問されました。食用の果実は食べますが、この様な木の実はそこまで考えなかったので新鮮な気持ちで見ることが出来ました。私と違い知っている人も多いと思いますが、実と種はほとんど同じ大きさでした。鳥は実を食べてもほとんどが種で消化されず、鳥は沢山食べる必要があると分かりました。他の種類はどうかと考えが発展し観察します。

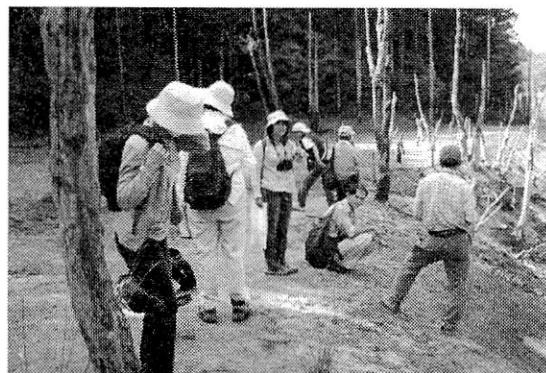
気候の温暖化の話などをしながら次々と観察を続けます。次には、カエデの実が見つかると風に乗ってどの位飛ぶのだろうと、参加者で想像しながら話しが弾みます。

今回の「木の実」のテーマは、実と種子に関しての幅広い観察と参加者の中から観察方法の色々な見方を知ることで、今までと違った観察方法や説明方法などを 次回に生かせると思います。

昼食タイムはサテライトを使用して、休息後また午後の観察に出かけます。予定は午前中ですが、午後は自由参加として参加出来る方のみで散策が続きます。毎回テーマを持つことで観察の注意の仕方が異なるので、いつもよりも細かい所が観察出来て良いと思いました。



ガマズミとカマツカの実と種



海上の森の砂防池で休憩中

自然観察指導員としての企画発想

【ボーイスカウト（青少年育成 活動に活かす）】

名古屋支部 小塚達也



川の中から見る自然観察会風景

ボーイスカウトの指導者として約10年活動していて、キャンプやハイキングなど自然の中で子供達と活動をすることが多く、この自然を子供達に親しんでもらいたいとの考えで、自然観察指導員になりました。

ボーイスカウトは、幼稚園の年長～小2、小2～小5、小5～中3、中3～20歳、18歳以上の5つの隊に別れ、それぞれ指導項目が決められ、自然を親しむ項目も多く含まれています。しかし、自然に関する項目は、「指導書に載っている程度で」といった感じで済ませている傾向にあります。

「これで、いいのだろうか」が、私の企画の原点となり、いろいろな企画を立案し、実施しました。

【企画主旨】

子供達が興味を持ち、体感できる自然観察会を実施する。

【自然観察会実施例1】

- ・雄大な自然を見せる。

天生湿原近くでキャンプを実施したので、天生湿原へハイキングを実施。大きなブナ、樹に残る熊の爪痕、トリカブトの群生を見せました。そこでブナの話、熊の話、トリカブトの話をしました。写真や話などとは違う迫力に子供たちの目も輝き、感想文にもその事を書く子供も多く、観察会として成功したと思います。

【自然観察会実施例2】

- ・自然の造形を捜す。

子供達は、宝探しが好きである。そこで、鉱物採集を実施しました。水晶に黄鉄鉱です。六角錐、正方形といった形や色に興味があるのでしょう。今でも、水晶はペンダントに黄鉄鉱は、小さなビンに入れ大事そうに持っています。

【自然観察会実施例3】



長野県木曽郡阿寺渓谷にて

・目線を変えた自然観察会。

日常的な視点ではなく違う視点から自然を眺めることは大きな発見や驚きもあり、子供達には人気のある観察会です。上記写真のように川の中から自然を観察する「シャワークライミング自然観察会」を実施しています。川の中の生物や水辺の植物などを川の中に入り観察する事は、子供達にとっては冒険であるようで人気の観察会です。

ボーイスカウトという特殊な組織対象に実施している観察会なので、参考にならなかったかもしれません、観察会を企画する上で、驚きとアクションを取り入れる事が必要ではないかと私は考えております。

対象者にあったアクション+1話完結、で新しい観察会が企画できるのではないか。

【PS】アクションを組み入れるにあたり、安全面のスキルを指導員の方々は修得していただきたいと思います。スタッフの人員も重要です。私が実施している「シャワークライミング自然観察会」の場合、赤十字救急員資格者3名、急流救助資格者2名、陸上待機者6名のスタッフで約20名の子供達と実施しました。救急用品や装備についても重要です。

自然セレクション 100

東山公園

名古屋支部 滝田 久憲

東山公園は名古屋市千種区、天白区、名東区にまたがる都市公園で隣接する平和公園を合わせた東山の森は約410haの名古屋市で一番大きな緑地となっています。

この東山公園は東西に走る二つの幹線でほぼ三つの区域に分かれています。広小路通をはさむ北部地区にはアクセスが良いこともあり、千種スポーツセンターや東山動植物園、東山スカイタワーなどがあり、東山公園のシンボルともなっています。また、中部地区には一万歩コースや里やま景観の残った藤巻町などがあります。この一万歩コースは美しい日本の歩きたくなるみち500選にも選ばれています。また、南部地域には天白渓湿地や沢止め池などの水辺があり、手付かずの自然が残されています。江戸時代、この地域は尾張藩の“御狩場”として使用され、農民などの立ち入りが禁じられていました。明治、大正になると開墾が進み、谷筋にはため池と谷津田ができ、里やま化してきました。戦後の一時期まで、燃料のために樹木などが切り出されていましたが、1960年代の燃料革以降、山は放置されています。

東山公園は尾張丘陵の一部で標高50～90mのなだらかな丘陵地です。その表層には、チャートなどのレキや砂、粘土で構成された八事層（又は唐山層）があり、尾根筋はどこもチャートのレキなどがゴロゴロしています。八事裏山にある通称人間地獄という崖でこの八事層の露頭を見ることができます。また、この地層の下には、東海湖の時代にできた粘土やシルトなどから矢田川累層があり、共に西に向って傾斜しているために、東山公園の東部に位置する藤巻町でこの粘土層を見ることができます。



▲ 湿地の自然観察

東山公園の植生

《アカマツ林》 東山公園の尾根筋には、チャートを主体としたレキが多く、土地が痩せているために、こうした環境に適したアカマツが樹高は低いながら多く生育しています。中木層にはソヨゴ、ネジキ、サカキなど。低木層にはシャシャンボ、ヒサカキ、コバノミツバツツジ、ネズミサシなど。

《コナラ、アベマキ林》 東山公園の丘陵斜面や谷筋では、コナラやアベマキなどの落葉広葉樹が高木層を形成し、亜高木層にはソヨゴ、タカノツメ、中木層にはシャシャンボ、ヒサカキ、サカキ、リョウブ、カクレミノ、アラカシなど。

《湿地》 東山公園を覆っている八事層の中には所々で、粘土だけの不透水層があり、地下水が山の斜面やふもとで湧出し、湿地や水溜りなどの水辺を形成しています。この湧水は貧栄養で、弱酸性なために生育できる植物が限られることから、これらの湿地ではシラタマホシクサやトウカイコモウセンゴケなど東海地方固有な植物が生育しています。また、水溜りなどにはトウキョウサンショウウオ、ホトケドジョウ、ヒメタイコウチなどの希少種が棲息しています。

現在、東山公園では第3日曜日に東山自然観察会が実施されたり、なごや東山の森づくりの会による森づくり活動などが実施されています。

■ アクセス 地下鉄東山線「東山公園」駅下車（都心の栄から東へ約5km）

自然のしくみ

私は、自然に关心を持つようになって未だ5年、そんな未熟者の私に、編集委員氏から観察会について書くようにとのことでした。恥を搔くつもりで、また間違いを書いたときにはご指摘と、お叱りを頂けるのを楽しみに暫らく書かせていただきます。どうぞよろしく。

私が観察会で大切にしているのは、巧妙で神秘な自然のしくみを知ってもらうことです。もちろん参加者が自然を好きになり、自然を守る側の人になってもらうためですが、その為に毎回2つ3つは自然の仕組みについて観てもらい、驚きと感動を味わってもらいたいと願いやっています。このシリーズでは、私が感動した自然の仕組みのいくつかを紹介してみたいと思います。

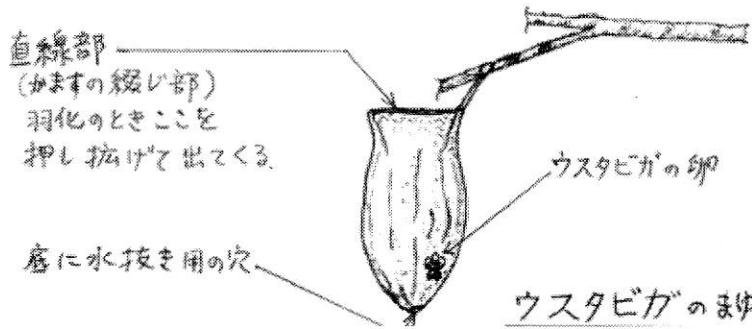
この時期、野山はすっかり落葉し冬枯れの状態です。そんな中で枝先に揺れているウスタビガの繭を見つけることがあります。「やまかます」とも呼ばれる緑色をした美しい繭です。私が自然観察に興味を持ち始めた頃に図鑑で得た知識では、ウスタビガは卵で越冬し、冬に見られる繭は成虫が11月初め頃に羽化した後で、中に蛹は居ないとのことでした。この繭をなんとか見たいものと冬枯れの雑木林へ出かけて、何度も目にやつと見つけたときにはその美しさに感動したのを今も鮮明に覚えています。中に蛹は居ないはずだと手にとってしげしげと観てみましたが、蚕やヤママユガの繭のように成虫が繭に穴を開けて出て行ったような穴が在りません。下に丸い穴が在りますが成虫が出て行ったとはとても思えない小さなものです。寝坊

西三河支部 奥居達朗

助の蛹がまだ中に居るのではないかと思い振つてみましたが、確かに中は空のようでした。成虫はどうやって消えたのでしょうか? その後何度も「やまかます」に出会いましたがどれも初めて見たものと同じで謎が残ったままでした。初めて見たときから二冬目だったと思います。

「やまかます」を見つけ手にとって観ているうちに上部の「かます」の綴じ合わせ部がパカッと開きました。あつと思いました。それまで美しい繭を宝物のように大事に扱っていたので、ぴったりと閉じられた穴に気が付かなかったのです。その時は「かます」の直線部の両端にぐっと力を加えて挟んでいたのです。小銭入れで、口が2枚の板ばねで閉じられていて、両端を挟んで狭めると板ばねが曲がって口の開くのがあります。あれそっくりの開き方なのです。羽化した成虫は、この穴を押し広げて出て行つたのです。そして下にある穴は、上部の出口の穴から入る雨水の排出口だったのです。巧妙な仕掛けはそれだけではありません。繭を縦に切り開いてみると、水の排出口の上に網目状の仕切りが在ります。排出口から侵入する外敵に対する防御の仕掛けのようです。

この繭の外側には、こげ茶色をしたウスタビガの卵が産み付けられています。ウスタビガの雌が羽化して出てくるのを待ち構えていた雄が、すぐに飛んできて交尾をします。その後、雌は産卵を始めるのですが、自分が出てきた繭や近くの木の小枝などに卵を産み付けるのだそうです。《参考; 小学館 野外探検大図鑑 塩野米松他著》



平成 18 年度 第 3 回理事会記録

日時：2006/11/23 13:30~17:10

場所：なごやボラアンティア・NPO センター

参加者：松尾、鬼頭、榎原（降幡代理）、
石田、大谷、梶野、近藤、佐藤、滝田、永田、
堀田、三田、村上、吉田（欠席者：6名）

進行：松尾 記録：近藤

1. 次年度事業計画決定（含・総会講演講師）

■各担当者からの案を検討

◆研修及び受託担当（大谷）

①研修 A.6/30 テーマ：サンコウチョウ（会員：佐々木和治）於海上の森の森

※時期的なことについて問題提起があり担当会員と再度確認をすることになった。

B. 9/29 or 9/30 テーマ：鳴く虫（会員：水野利彦）

②「海上の森の自然観察ハンドブック・秋編」
作成に会員 2 名（佐々木和治、水野利彦）
が加わることになった報告があった。

◆編集・HP 担当（永田）

①「協議会ニュース」発行

奇数月発行（年 6 回）

②HP 作成

・事業報告の更新及び今後行事予定・リンクページ、掲示板の新設の提案。
・規約・会員のページの掲載については、今後の検討とする。サーバーの経費として 10,080 円（税込み）が必要。PDF ソフト（約 1 万円）の購入の提案がされ承認された。

③機関紙編集担当と HP 作成担当の双方を担当のは作業時間に無理があるので、分離と作業分担を希望。次回に適任者の選出を行うことを承認。

④編集部に各支部の協力が必要。最も会員情報を把握している支部長が、原稿依頼・執筆の仲立ち任務を兼ねることを承認。

◆企画担当（堀田）

3/21（春分の日・水）の総会プログラムについて：午前は支部交流会、午後は総会・講演会とし終了後は親睦会を行うことを承認。

① 講演会演題について、カシナガキクイムシ・外来生物・ため池などの提案がされ、講師との交渉を企画担当者に一任し、次回理事会に決定内容の報告。

② 会場未定（12/21 が申込み日のため）

◆観察会担当（山田：欠）

①ふるさと親子自然観察会は協議会主催の唯一の観察会であり、また支部内の交流にもなるので担当者（欠席）の無理がなければ続行してはどうかという意見交換がなされた。

②支部が実質的に保険負担をすることはないが、他の観察会との兼ね合いがあるので無料ではなく有料で実施の提案がされ、各支部一任とすることが承認された。

③PR や統一チラシを望む声があった。

※次年度の提案は、次回に持ち越し。

◆保全担当（吉川：欠）

・講師は、県職員に「外来種に関する法律の改定について」？を依頼。日程（1 月）、会場、その他は、担当者に一任。

※次年度の提案は、次回に持ち越し。

◆調査担当（吉田）

①オオキンケイギクの調査実施の提案がされ、承認された。

②「協議会ニュース」にチラシ折込を今後検討する。

◆会計担当（石田）

予算案作成のため、各担当者は次回理事会にて事業費の予算提示するよう要望。

2. その他

①11/23~24 の予定で愛知県主催による自然観察指導員講習会を桑谷山荘にて実施予定。協議会に協力要請あり。

② 12 月中旬より愛知県 HP にて希少種情報を募るので、提供の協力要請あり。

③ 保険会社の移行に伴って、観察会参加者数の報告が毎月必要になった旨の報告あり。

（翌月 10 日締め切り・観察会代表に連絡済み）

④ 旗については、次回見積もりを提示予定。

■「+」のマーク挿入

「協議会ニュース」の表紙の左端中央に小さなマークが挿入されたことに、気づかれましたでしょうか。「+」マークはB5サイズ中央の位置を示すものです。機関紙がよりファイルしやすくなりましたので、活用ください。

■平成19年度総会 於/愛知県勤労会館

3月21日（春分の日・水）開催

平成19年の総会が、見出しの通り開催されます。当日は午前に支部交流会、午後は総会及び講演会を予定。協議会主催ならではの講師をお招きすべく目下交渉中です。尚、会場は名古屋市内の方にも、市外の方にも便利な「鶴舞」の愛知県勤労会館です。詳細は次号でお知らせします。どうぞ、お楽しみに！

■理事会開催予定

日時 1月20日（土）13:30～16:25

場所 名古屋市公会堂

（JR鶴舞・地下鉄鶴舞下車）

議題 1. 次年度事業計画決定

（含・総会講演講師）：前回未決定事項企画担当（講師）・保全担当・観察会担当・研修担当からの提示

2. 総会次第決定

3. 編集担当者決定

4. 旗について

■会員の情報について

●新会員紹介

山内邦夫（西三河）

〒509-7401

岐阜県恵那市岩村町飯羽間921番地

0573-43-3870

●住所変更

野口隆央（東三河）

〒440-0011

豊橋市牛川通3丁目12-8

0532-61-5156

■「レッドデータブックあいち」

希少野生動植物の情報提供で

見直しに参加を！！



愛知県では、野生動植物への理解と認識を深め自然環境保全への取組みを進める際の参考とすることを目的に平成13年に「レッドデータブックあいち」を公表しています。目下、「レッドデータブックあいち」の内容を最新のものとするため、見直し作業が行われています。見直しにあたり、協議会会員の自然観察指導員のみなさんに情報提供の要請がありましたので、お知らせいたします。情報募集期間は平成19年1月31日まで。

詳細は下記、愛知県環境調査センターのWEBページ (<http://www.pref.aichi.jp/kankyo-c/red-data/>)へどうぞ。

■あいちエコカレッジネット講座
(スキルアップコース)

愛知県主催の講座のお知らせです。エコカレッジネットベーシックコース修了生を始め、地域で活動する自然観察指導員や里山保全アドバイザーなど、さまざまな講座を修了された方を対象に、環境問題を考えていく上で基礎となる知識習得のための講座が開催されます。平日コース・休日コースがあり共に3日間の講座で、費用は600円です。

関心のある方は、下記まで詳細を問い合わせてください。

＜申込・問合先＞

愛知県環境調査センター企画情報部

TEL 052-910-5489

Eメール kankyo-c@pref.aichi.lg.jp



行事予定



行事名	開催日時	場 所	内 容
理事会	1/20 (土) 13:30-16:30	名古屋市公会堂	次年度事業計画審議 ほか
研修会	1/21 (日) 10:00-11:30	なごやボラティア・NPO センター 第1 研修室	外来種に関する法律の 改定について
総会	3/21 (休・水) AM · PM	愛知県勤労会館(名古屋市) JR 鶴舞・地下鉄鶴舞下車 徒歩 3 分	AM: 支部交流会 PM: 総会、講演会、 親睦会

※上記研修会参加者に「海上の森自然観察ハンドブック」を配布。(1名につき1冊)

＜編集部からのおしらせ・おことわり・おねがい＞

◎今月号から1年間、渡辺敦さん(名古屋支部)に表紙のイラストとコメントをお願いすることとなりました。また、自然観察シリーズについても1年間、奥居達朗さん(西三河支部)に執筆いただくこととなりました。ご期待下さい。

◎11月号のP9「ツユクサ2種—マルバツユクサ&シマツユクサ」の中で、一部不十分な表現がありましたので、誤解をまねかないよう、この場を借りて補足させていただきます。マルバツユクサについて、東三河支部の牧野さんが分布調査されていると紹介しましたが、植物目録や地域の自然関係の文献などを当たって調べたものであるとのことです。(齋竹)

◎みなさまのご意見・ご感想、自然観察に関する原稿をお寄せください。

(送付先 下記編集部又は E-mail : BZA03620@nifty.ne.jp)

なお、原稿は内容を変えない程度に加筆・修正することができます。あらかじめご了承ください。

編集後記

本号の編集を終えたら、もう年末。去り行く2006年を振り返ってみるといろいろなことがありました。戌(いぬ)年にちなんでのことか、国内で30数年ぶりに狂犬病患者が発生して話題に。秋には、ツキノワグマやニホンザルが山から降りてきて各地でトラブルを起こし、連日、新聞を賑わせました。

来る2007年は亥(いのしし)年。イノシシやクマなどの野生動物と共生できる年になることが望まれますね。(齋竹)

編集スタッフ

岩沙 雅代、近藤 記巳子、齋竹 善行、
永田 孝、古川 俊江、牧野 靖子、
横井 邦子、吉田 孝三

協議会ニュース編集部

〒470-2401
美浜町布土明山299-2
永田 孝

愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 愛知県名古屋市南区鳥栖2-6-17 桜本町CH101
近藤 記巳子 Tel/Fax 052-822-7460